

# 第1回 健康長寿文化づくり推進会議 議事要旨

日時:平成24年5月22日(火) 10時~12時

場所:奈良県文化会館・多目的室

出席者:

(委員)荒瀬周児、伊藤宏子、稲垣正敏、黒飛文子、車谷典男、辻井毅、  
西梶浩司、藤尾庸子、松崎三十鈴、松田和枝、安元寛子、吉田雄一、  
吉本清信(五十音順)

(オブザーバー)江南政治

(事務局)松山仁志、橋本安弘、大原賢了 他

概要:

○ 会長として、吉本清信委員を選出。

(以下、主な意見・質問、(→)は事務局発言)

(1) <議題1> 第1期奈良県健康増進計画の評価

(主な目標項目の達成状況と現状の課題)

- 喫煙率が低いのであれば、全国順位は46位と記載したほうが良い。
- がん検診精密検査受診率が低いとのことだが、がん(疑い)と言われたら検査に行くのが普通と思うが、どういうことか。
- がん(疑い)と言われても、深刻に考えていない者がいるということ。検査結果の説明の仕方やそのインパクトにもよる。
- 精密検査を受けるように勧められても、受けずに放置であれば検診を受けた意味がない。なぜ精密検査を受けないのか理由の分析が必要。

- 先生からの働きかけにより、給食を食べない子どもが大きく減った経験もあり、がん精密検査受診についても、個人に対する一歩進んだ対策が必要。
- 脂肪エネルギー比率や野菜摂取量の変化は統計的に誤差範囲かどうか分析が必要。
- 栄養に対する意識は良くなっているが、「バランス」の意味があいまい。具体的な内容について啓発すべき。(→今年からスタートした第2期奈良県食育推進計画により、分かり易い指標を用いて普及啓発を進める。)
- 働き盛り世代・壮年期世代の栄養、運動、健診受診等、健康意識や取り組みに課題があり、対策が必要。
- 工業団地に出向き、食堂で従業員の昼食の状況を観察した。ちらし配布だけでなく、話し合いをすることが大事。商工会に出向いて薄味のみそ汁を提供する取り組みを行った。働き盛り世代の健康づくりは、職場に出向いての働きかけも必要。若い世代のお弁当は揚げ物が多い。若い世代への働きかけも必要。
- (健康づくりは、)いつの間にかやっていることが大事。(職場などで、)イニシアティブを取れる人の存在が重要。
- 食事バランスガイドを利用した普及啓発を行っており、今後とも継続していく。
- 自殺者は少ないといえども年間約300人いる。市で自殺対策に取り組むこととしたが、自殺の原因究明をお願いしたい。
- 奈良県の自殺率が低いのはなぜなのか、地域サポートがある等の関係を調べる必要がある。うつ病に対してはネガティブな意識をもっている人が多く、早期医療につながりにくいため、家庭への意識啓蒙が必要。
- 悪い指標の分析だけでなく、よい指標の分析も必要。何がよかったのか対策

が見えてくるのではないか。

- 8020良い成績であるが、歯の数の測定方法は。(→自分で数える方法。実際に歯科医師がチェックした調査と差がなかったという調査結果もあるので、実態に近いデータであると思う。)
- 働き盛り世代への歯科対策は高齢になってから効果が出る。10年後を見据えた評価が必要。
- 昭和工業団地では歯科検診を実施。自発的な取り組みが重要。

(2) <議題2> 第2期奈良県健康増進計画の基本的な方向性について

- 計画の到達目標には、問題のあるものだけでなく、喫煙率など成績の良いものも入れるべきである。
- 国目標の「健康格差の縮小」は、県目標には入れないか。  
(→ 県計画では市町村格差となるが、格差を示すデータがない。  
個別市町村対策でなく、分野別対策により、県全体を向上させていく。)
- 計画の分野で、がんを生活習慣病のくくりではなく、別建てしている理由は何か。生活習慣病では、国が言う慢性閉塞性肺疾患など、具体的な疾病名を明示してはどうか。  
(→ がん対策は県として力を入れているため独立。生活習慣病では、慢性閉塞性肺疾患、慢性腎疾患(CKD)、歯科口腔保健とも関係する誤嚥性肺炎を想定しており、記載方法は検討する。)
- 高齢者の健康は重要であり、分野に含めても良いのではないか。  
(→ 検討する。)
- 高齢者の健康は、介護予防もあり分野に含めれば良い。

次世代の健康についても、喫煙など子どもへの働きかけが必要。

- がん、健診・生活習慣病という順番なら違和感は少ない。
- 高齢者や次世代の健康は、計画の方向性の(1)ライフステージの中で示し、具体的な目標を入れることで対応してはどうか。
- 国が健康寿命の「延伸」と言っている中で、県が健康寿命の「延長」と言っている理由は何か。
- 現行計画を作成した平成13年に、住民に分かり易い言葉として「延長」を提案した。新たな計画でどうするかは議論したい。
- 施策として、いつ、誰が、何をしていくのかについて、明確にする必要がある。

以 上